

コドモカルタから幼児唱歌(2)

葛原しげる

(1)

小學校は、校長先生のよいのが、善いことはいふまでもなく、校舎のよいのも善いに決つてゐますが、しかし、もつと大切な事は、受持の先生のよい事が、一番大切です。

幼稚園では、やはり受持の保姆先生の善い事ですが、多くの場合、園長その人の何かが、その部下の若い保姆先生方に影響します。それで、私は、思ひきつて、理想的な「園長先生」をかいてみました。

園長先生

小松耕輔氏作曲

1、園長先生 ニツコニコ

唱歌も遊戯も お話も

皆 お好きで お上手で

いつでも いつでも ニツコニコ

2、園長先生 ニツコニコ

稗も 積木も おはじきも

皆 お好きで お上手で

いつでも いつでも ニツコニコ

3、園長先生 ニツコニコ

お砂場遊びも お手玉も

皆 お好きで お上手で

いつでも いつでも ニツコニコ

(昭和幼年唱歌第一集)

もし、お叱りを受けるかも知れませんが、でも、理想で

なくては、一般向には書けませんもの。只、ブランコだけは省きました。それは、日本中の園長先生の中には、きつと、おのれにならない方も御座いませうし、おのりになると、幼稚園のブランコの綱の断れるほどのお方様も御座いませうから。

各節とも最後を

いつでも いつでも ニッコニコ

としましたのは、この方が、いかにも、やさしくひどくからです。たとへば、

いつでも ニッコニコ ニッコニコ

ともしたいところです。これでは、安つぽくなつてしまいます。品が下つてしまいます。どうぞ、しとやかにでも、甲斐々々しく、私から申しますと、いつもニコニコして、いつもピンピンとして、そして、幼児と一緒に、よく遊んで下さるのではなくては、園長先生ではありません。そして全く、いつもニコニコしてゐて下さるのではなくては、ほんとの園長先生ではありません。校長先生の中には威厳を保つといふ事に苦心さるゝ方もあり、その必要のある場合も

ありませう。しかし、園長先生に限つては、そんなものは、いけません。いけないです。必らず、お體丈夫に、いつもニコニコでゐて下さい。そして、いつも、ピンピンとしてゐて下さらなくては、園長先生ではありません。

いつも ニッコニコ 遊戯や唱歌

をしへて下さる私の先生

今日も ニッコニコ いつものやうに

をしへて下さい 私の先生

これは、大正三年頃作つた「私の先生」の第一節で、大正幼年唱歌の第一集に収めた梁田貞氏作曲のもですが、それよりは、此の度の方が、たしかに幼稚園向ではないでせうか。一體、幼稚園の先生は、どなたでも斯うありたいのですから、園長先生と、きめる事は如何とも案じましたが、題目としては、他にないのです。保姆先生とは申しません。又、舊作の様に「私の先生」では、小學校の先生でありますから、幼稚園だけのにしたのです。

(二)

「マリ ガ ツキタイ」とは何といふ女らしい望でせう。
「ヨロヒ ヲ キタイ」が男らしいのと好一對に――。

そこで、毬とは何んな毬でせう。

そして、どこでつきたいんでせう。

かくて出来ました。

毬がつきたい

梁田貞氏作曲

一、私は 毬が つきたいな

大きなゴム毬 白い毬

真赤なお花を かいた毬

トン／＼ トン／＼ つきたいな

二、私は毬が つきたいな

お縁で ついても はづむ毬

お庭で ついても はづむ毬

トン／＼ トン／＼ つきたいな

(昭和幼年唱歌第二集)

幼稚園程度の女兒は、毬が好きです。大きいゴム毬が好きです。只白いのよりは、美しい模様のついたのが好きです。美しい模様にはいろ／＼あります。その中でも、歌になるのは、毬では何としても花の模様です。赤や青の繪の具で鮮かに描いた花模様の毬です。私などの幼時はゴム毬は無くて、綿をしんにして、糸を巻いたのか、又は綿なしで、しんから糸を丸めて巻きつけた毬でした。そして後者の方がよくはづむのでした。その糸は、多く木綿を織つた末の糸切を、繫いでは巻きつけるのでした。それが、自分の身長よりも高くはづむといつては悦んだものでした。姉や姉の友達に作つて貰つては毬の數の殖えるのを悦びました。また、大きいのを悦びました。大きいといつてもやつと橙位の大きさのものでした。そして、色糸で、かゞつたのは上等の毬でした。

今や毬界は、ゴム毬全盛でした。自分の頭よりは大きい程のゴム毬を、重くもなく抱へて、ついて遊べるのです。うれしいことです。そして、自分の身長も二倍も三倍も高くなるので上るのです。うれしいことです。

『これ〜、穂を、墨の上でついではいけません』

と、よく叱られるほど、どこでもつきたいのが穂です。それで、お縁と、お庭とを特に第二節で出しました。ほんとに、穂はよくはづまなくてはつまりません。よくはづむ穂を、上手に上手につきたいのです。

トン トン トントン つきたいな

は、『上手に〜つきたいな』のことです。上手につけるのでなくては、つまりません。

(三)

ノハラ ハ ヒロイ

ほんとです〜。野原は広いです。廣くなかつたら野原ではありません。何といふすばらしい表現なのでせう。しかも其の繪のすばらしさ。只、(形の草が一面に重ねて描いてあるだけなのです。大人がかく野原は、きつと道路まで、遠雲までかくでせう。ところが、只、簡単な手法の草ばかりで。安心してあるのは、何といふ自信でせう。野原は草こそ特徴でした。

さて、『野原』の、さうした感じを、まづ曲でかいて貰

ひました。曲だけで、この廣い感じを、かいて貰ひまして、それで、それに、歌詞をはめることにしました。中の、タラの二行は、作曲者の選定です。その他の歌詞を定めるために、作曲者と、夜更まで、いろ〜に歌つて見ても、苦しみました。少し長くて、対照しにくいのですが、左のとほりです。

野原は ひろい

梁田貞氏曲

1、野原はひろい どこまで廣い

あれ〜廣い どこまでも

野原は青い どこまで青い

あれ〜青い どこまでも

あれ 花がさいて

鳥がないて

楽しい野原

タララ タララ タララ タララ

タララ タララ ララララララ

野原はひろい どこまで ひろい

あれ〜ひろい どこまでも

2、野原はつどく どこまで つどく

あれ〜つどく 天までも

野原は青い どこまで青い

あれ〜青い 天までも

あれ 花がさいて

鳥がないて

楽しい野原

タララ タララ タララ タララ

タララ タララ ララララララ

野原は つどく どこまで つどく

あれ〜つどく 天までも

昭和幼年唱歌第二集

少しく理窟つばいとも思ひ、長すぎるとも思ふのですが

しかし、非常に軽快な曲ですから苦もなく、覺へられ、苦もなく歌はれるでせう。

少しく紛れ易い言葉がつどきますから、幼兒の暗誦に向かとも案じますが、第一節は

野原は ひろい……どこまでも

野原は あをい……どこまでも

……

野原は ひろい……どこまでも。

で、初と終とは同じです。第二節は

野原は つどく……天までも

野原は あをい……天までも

……

野原は つどく……天までも

で、やはり、初と終とは同じです。そして各節とも、中央は、同文句なのですから右の二形式さへ覺えれば、苦はないのです。それも、曲の流れに乗つて、樂に、文句は口

につくはずです。長いからとて、すぐ、恐ろしがられては困ります。

(四)

ヨロヒヲキタイ

ほんとです。五月の節句にでも、見るたびに、鎧は『着て見たいなア』と思ふのが男児の常です。それが、すなほにかいてありますから、少しも嫌味がありません。ヨロヒヲキタイ！ 何でもない事ですが、これは、決して韻文ではありませんが、その心持の躍動は、リズム豊かに、ピチ／＼はねてゐるのです。そこで、

鎧を着たい

小松耕輔氏作曲

一、鎧を着たい 着て見たい

昔の 強い大將が

みんな 着てゐた鎧です

二、鎧を着たい 着て見たい

刀も 二本 かう差して
兜かぶつて 御大將

(昭和幼年唱歌第二集)

『昔の、えらい大將』といはないで、『強い』にしたのも、『みんな』とつけましたのも、あくまで、積極的に願ふ心からです。『刀も二本かうさして』は、手まね身振をそのままに寫しました。『御大將』とは、少しく、幼児語から離れますが、これくらゐは、許して頂きたいのです。そして、これは、遊戯をつけられます時、まる／＼肥えた坊ちゃん達が、紙の兜をかぶつて、どんなにか、大感張であらうかと、思つてみても愉快です。昔から、五月織や、武者人形の唱歌は幾つもありますが、『ヨロヒヲキタイ』と、端的に、直截的に謂ひ放つたものはないのです。遠足に行きたい、菓子を食べたい。何々したい……：幼児の欲求は無限ですが、凡そ、鎧を着たいといふ程、實際に同感しうる特殊の欲求は少ないではありませんか。珍らしい鎧です。昔の武士は皆着たといふ鎧です。見るからに立派

な鏡です。珍らしい物は何でも経験して見たいのが兒童な
のですが、鏡や兜は、いかにも男性的で、男兒の心を引く
こと百パーセントで、全く、『ヨロヒヲキタイ』のです。
實際、見榮坊の心も手傳ふ大人には、よし、さう思つたに
しても、かう端的には謂へない事です。そこに強い慾求が
此上もなく効果的に現はれてをります。

斯く聞く時、幼兒の言葉は、すべて割引するを許さない
絶叫である事が今更に思はれます。おろそかに、聞き流し
たり、よい加減な返事をしておく譯にゆかない所以です。

(五)

どの動物園へ行つて見ましても、人氣ものは猿です。そ
の動作と、その容貌とが、人の眼をひき心をひくのです。
殊に子供を引きつけるのです。その猿について曰く、

サル ハ ヒツカク

全く、猿は引掻きます。引掻く他にも猿の特徴はありま
す。その昔『おさる』と題して、作りましたのは梁田氏の
名曲を得ましたが、

おさる おさる

キヤツ キヤツ キヤツ

追つかけて ころんで

キヤツ キヤツ キヤツ

親猿 子猿一しよに遊ぶ

あつちでも こつちでも

キヤツ キヤツ キヤツ

おさる おさる

キヤツ キヤツ キヤツ

(大正幼年唱歌第六集)

といふのがあります。之は、その聲と、親子で一緒に遊
んでゐるといふ事とに中心をとりました。ところで、その
擬聲が多すぎて、却つて効果を弱くするとも考へましたの
で、後に、宮城道雄氏の箏曲童謡としては

おさる おさる

追つかけて遊ぶ

ころんで遊ぶ

親猿 子猿 一緒に遊ぶ

あつちでも キヤツ キヤツ キヤツ

こつちでも キヤツ キヤツ キヤツ

(箏曲童謡第一集)

としました。右二篇の何方が、實際に幼児向として正しい表現であるか御批評を頂きたいのですが、又別に、猿の特徴を、お顔とお尻の赤いところに取りまして、『お猿のお顔』と題してものした一篇があります。これは、箏をひくお嬢様、また、それを聞かされる方々の多くは、極めてお上品でゐられせられませうに、お顔はよいとして、お尻は少しではない、大に困りますが、然し、由來、子供の爲の長唄にも、お琴にも、その『お上品』なのばかりで、氣持よい笑ひ得る曲といふのが無いのです。そこに氣がついて、大に笑ひ得るものを得たくて、次のを作りました。全く無邪氣とか、可愛らしいとか、美しくて上品なものが多いのですが、思ひ切つて笑ひ得るものが少ないのです。それで大正八九年頃は前記の『おさる』で、ニッコリさせられ

ましたが、十二三年頃は『チョコレイト』でオホホホ位の笑を醸させられました。それが、昭和三四年頃には、此の『お猿のお顔』で、ワハハツ——と笑はされたのです。しかし、これには下品な缺點がありますので、全然、別に、『ワン／＼ニヤオ／＼』を得て、昭和六年は、大に、遠慮なしに、敢て上品といふのでもありませんが、決して下品でなく、ワハハ、、、と心から哄笑する機会を與へられて箏曲童謡の成功を見たのでした。

さて、『お猿のお顔』といひますのは、

お猿のお顔は 赤いのさ

生れた時から 赤いのさ

怒つてゐるんぢや ないんだよ

酔つばらつてゐるんでも ないんだよ

お猿のお尻は 赤いのさ

生れた時から 赤いのさ

尻餅ついたんぢや ないんだよ

怪我してゐるんでも ないんだよ

(箏曲童謡第二集)

足の爪 長い
手の爪 長い

です。事實、お猿のお顔とお尻とは赤いです。その特徴は、他の動物の何にも無い所ですが、今、新らしく、幼児の表現に教へられたのは『サルハヒツカク』ことでした。

たしかに猿は引掻きます。しかし、引掻くのが、いつもではありません。とはいふものゝ、やはり、猿の猿らしいところは、子一緒に遊ぶこと、お顔やお尻の赤いことと共に、たしかに、引掻くことです。そこで、

猿はひつかく

小松耕輔氏作曲

一、猿は ひつかく きやつくくく

眼玉 くるく

齒を むき出して

二、猿は ひつかく きやつくくく

三、猿は ひつかく きやつくくく
ぢらすな さわるな
眞似でも 撲るな

(昭和幼年唱歌第一集)

としました。第三節は、あまり訓話めいて少しく氣がさしますが、動物園の熊か何かのところには、『ステツキなぞで撲る眞似もしないで下さい』とかいてあつたと思ひます。猿も可愛がつてやらねばなりません。そのために、かくは訓話めいた結びにしたのです。恐らく此の第二節の、『足の爪長い 手の爪長い』が、この題にとつては最も主要な表現であると信じます。